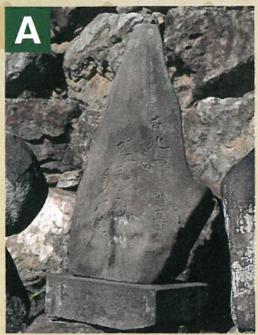


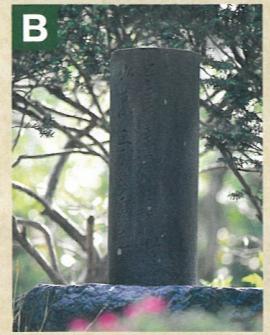
郊外の芭蕉句碑

広域マップのA~Fのついたものです



古池や蛙飛こむ水のおと 獅子庵
獅子庵(岐阜市北野北沖681)

芭蕉十哲の一人で美濃派俳諧の始祖 各務支考の住居跡で、平屋建ての簡素な建物の北側に芭蕉らの句碑があります。支考は、はじめは寺に入り僧となりますが、やがて仏門を離れ芭蕉の門下となり各地を遊歴しました。その後故郷に帰り美濃で俳句を広めました。



水相似り三またの夏 黒野地蔵寺



梅が香にのつと日の出る山路哉 梅林公園



撞く鐘もひびくやうなり蝉の声 円徳寺



松杉をほめてや風のかほる音 信浄寺



折々に伊吹を見ては冬ごもり 茜部白山神社

岐阜の文学碑

岐阜市内には岐阜ゆかりの作家たちの文学碑も建てられています。主なものをご紹介します。



G 川端康成文学碑
(ポケットパーク「名水」)

日本人初のノーベル文学賞受賞作家である川端康成は、大正10年、「初恋の人」に会うために3度に渡り岐阜を訪れています。

2度目の来岐で「初恋の人」伊藤初代さんと結婚の約束をし、長良川沿いの宿の2階から鵜飼を見物しています。

その様子は、自伝的小説「篝火」に描かれています。

結局、結婚の約束が果されることはありませんでしたが、この岐阜での婚約そして破談という体験は康成の心に大きな影響を与えました。

これらの経験は、「篝火」の他、「非常」「南方の火」などの作品の中に描かれています。

H 森田草平文学碑

(森田草平記念館 岐阜市鶯山387-1 TEL.058-232-2147)

明治14年岐阜市鶯山に生まれた森田草平は25歳の時、夏目漱石に師事し漱石の門下生四天王の一人に数えられました。

明治42年、出世作となる「煤煙」を朝日新聞に連載し、一躍有名作家となりその後も自伝的長編小説「輪廻」などで文壇を賑わしました。

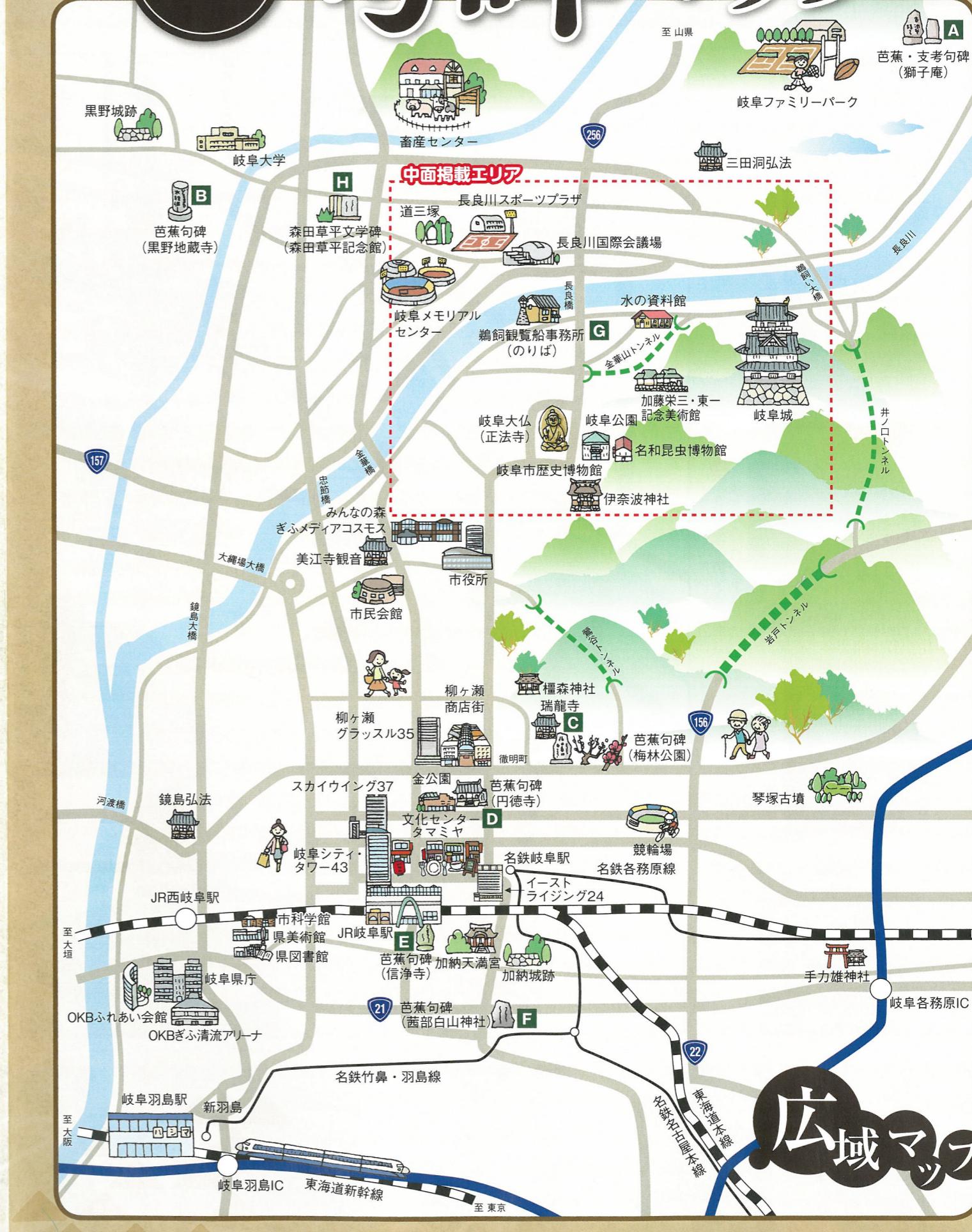
現在、森田草平誕生の地は、森田草平記念館になっています。敷地内には立派な文学碑が建立され、館内には草平の作品や愛用品が数多く残されています。

記念館の見学は、事前予約が必要です。



句碑マップ

岐阜市



広域マップ

【観光のお問い合わせは】

(公財)岐阜観光コンベンション協会／岐阜市神田町1-8-5 TEL.058-266-5588

岐阜市観光コンベンション課／岐阜市司町40-1 TEL.058-265-3984

岐阜市観光案内所／岐阜市橋本町1丁目JR岐阜駅2F TEL.058-262-4415



観光情報は
こちら!

句碑紹介

地図中①～④の番号のついたものです

金華山・長良川周辺

The map illustrates the following points:

- ①** 城をあふぎ流れに寄りて
あけくれのいのち愛しめばけふも佇む
（近藤 鴻）
- ②** 石見ゆる間に鵜のかけ走りけり
（山口 詩子）
- ③** 城涼し天の真中に孤絶して
（松尾芭蕉）
- ④** 夏来てもた、ひとつはの一葉かな
（松尾芭蕉）
- ⑤** 又たくひながらの川の鮎なます
（大野万木）
- ⑥** 鵜がりや閑美しき金華山
（鵜匠）
- ⑦** このあたりめにみゆるもの皆涼し
（山口 詩子）
- ⑧** タ焼のすでに紫鵜飼待つ
（山口 詩子）
- ⑨** 鵜飼の過ぎゆきし闇は芭蕉の闇
（松井利彦）
- ⑩** 間中に山ぞ聳つ鵜川哉
（河東碧梧桐）
- ⑪** おもしろつてやがて悲しき鵜舟かな
（松尾芭蕉）
- ⑫** 篝火の末にはゆる君こそは
鵜匠なれば腰蓑の風折鳥
満れしく腰蓑の風折鳥
帽子古風にて
すばやく手にさばく
松の葉ははらに
時の間ゆべ水のかぎりなき
灯にほへば
香魚を追ふ鵜の数のつきぎど
ほうほと呼ぶ一系の誰ならず
夜を惜しむなり
- ⑬** やとりせむあかさの秋になる日まで
（北原白秋）
- ⑭** 鵜の川の迷々よ時の流れより
（山口 詩子）
- ⑮** たのしみや松に隠れしけふの月
（三浦鴻良）
- ⑯** 羽つくろふ鵜やかがり火の
消ゆるころ
（小木曾旭晃）
- ⑰** 城跡や古井の清水先とはむ
（大野万木）
- ⑱** 夏きてもた、ひとつはの一葉哉
（松尾芭蕉）
- ⑲** 天そそる金華の城や風光る
（大野万木）
- ⑳** すゞめの子一尺どんぞひとつとや
（長谷川双魚）
- ㉑** 正史にはさありとも鷹の涙落つ
（塩谷鶴平）
- ㉒** ふもとにこがね花咲名だはしの山
時じにこがね花咲名だはしの山
（松平靜）
- ㉓** 早瀬ゆく鵜糞のいま獅子頭
（鷹狩行）
- ㉔** 山かけや身をやしなはむ瓜はたけ
（松尾芭蕉）